

DRFmed-MIS29 : DRF 主題ワークショップ（医学・看護学）

in 第29回医学情報サービス研究大会築地大会

リポジトリで発信する医療情報

—病院図書館との連携—

現在、医学系大学図書館において、病院誌や看護研究誌などに掲載されている文献への需要が高くなる一方で、発行部数、寄贈先の限定などの理由により、それらの入手は非常に困難となっています。それらを解消するには病院側（図書室、担当事務部門など）の協力が不可欠ですが、解消するための有効な手段があまりありません。（※寄贈してもらうよう申し入れるか、無理を承知で直接病院に文献複写を依頼するか等）

そこで、今回のワークショップでは、その解消手段の一つとして、現在大学図書館等で導入が進んでいる機関リポジトリを紹介し、事例報告や意見交換を行います。

具体的には、病院誌、看護研究誌などが求められるケース（現場からの声 ※特に ILL 担当者）の事例報告や、機関リポジトリの便利な活用事例、そして小規模な図書館が参入しやすい運用モデルとして、複数機関が共同運用する「共同リポジトリ」の紹介等を予定しています。

またデモ機等も用意していますので、興味のある方は実際に機関リポジトリに触れてみてください。

プログラム：（敬称略）

第1部（10：45～12：15） ※進行：坂本祐一（大阪大学附属図書館）

○基調講演

「機関リポジトリを構築することで人々を幸せにする」

鈴木正紀（文教大学越谷図書館、DRF 運営委員）

○事例報告

「病院図書館でのリポジトリ導入事例」

天野いづみ（日本赤十字社医療センター医学図書館）

「ILL 担当者からみた機関リポジトリの展望」

木下智子（奈良県立医科大学附属図書館）

第2部（13：30～15：00）

○パネルディスカッション「医療情報と機関リポジトリ～現場からの声～」

話題提供：天野いづみ（日本赤十字社医療センター医学図書館）

増田徹（近畿病院図書室協議会）

土出郁子（大阪大学生命科学図書館）

和田崇（奈良県立医科大学附属図書館）※座長兼務

○質疑応答（なんでも質問大会）

問合せ：

DRF（デジタルリポジトリ連合）<http://drf.lib.hokudai.ac.jp/drf/>

連絡担当者

坂本祐一（大阪大学附属図書館 TEL.06-6850-5071）

和田 崇（奈良県立医科大学附属図書館 TEL.0744-23-9981）

